

令和2年度第1回米子市廃棄物減量等推進審議会 資料1～6に関する意見及び回答について

資料	ページ	項目	意見	回答
3	p.1	1 1人1日当たりのごみ排出量(事業系ごみ)について	量の把握が十分できておらず、減量できていない現状がある。 目標達成への具体策(案)を多方面から収集し、提示していただきたい。	事業系ごみの減量については、組成調査等、現状把握の上、効果的な施策を検討する必要があると認識している。今後の審議会で具体的な施策を提示したい。
4	p.1	1 4Rの推進 (1) 家庭系ごみ 店頭回収の充実について	現状を具体的に知りたい。また、今後の具体的な施策も提示してほしい。 店によって回収物種類が異なるので、市民へ一覧表の提示があればありがたい。また、回収できないものやできない状態のものも回収箱に入っているのを目にする。店側の対応や思いも知りたい。	店頭回収については、6/16～7/6にかけて市内のスーパー等に対してアンケートを実施中である。集計結果については、市ホームページやよなごみ通信等で公表する。 店頭回収の注意事項等、店側からの要望についてもあわせて調査しており、市から周知を図りたいと考えている。
4	p.2	2 環境教育、普及啓発の充実について	公民館の「〇〇学級」で年1回は環境教育を義務付ける方向でアクションしてほしい。 ※健康教育は年2回必須だが、環境教育はあってもなくてもいいらしい。	公民館講座(年12回)については、人権教育と家庭教育については必須であるものの、その他については各公民館が講座内容を決定している。 講座の義務付けは各公民館の活動の自由度を狭めることにもつながることから、義務付けとはせず、公民館に環境講座例を示し、年間計画に組み入れてもらうよう働きかけるなどして啓発に努めていきたい。
4	p.3	3 低炭素社会との調和	施設から排出される温室効果ガスの量の周知とあるが、「数字」では具体的に伝わりにくい。わかりやすい何かに例えるなど、伝わる伝え方の工夫がほしい。	温室効果ガスについては、目に見えるものでないことから、分かりやすい例示等について検討したい。

資料	ページ	項目	意見	回答
4	p.3	4 廃棄物の適正処理 (1) 収集・運搬体制	経費増の一部品目は何か。	平成 26 年度から令和元年度の間に、収集量当たりの収集経費が 10% 以上増加しているのは、古紙類、再利用ビンのほか、可燃ごみ、不燃性粗大ごみ、缶・ビン類、白色発泡スチロール・トレー、牛乳パックである。
6	p.3	2 レジ袋の削減について	有料化などによりレジで受け取る袋が減っても、生活上ポリ袋が必須の傾向なので、商品のポリ袋を購入し、これまでと同様に使うと、全体の使用量の減量につながらないのでは。そもそもポリ袋を極力使わない生活を推進していくことが大事である。家庭内のごみ箱はポリ袋でなく新聞紙や使用済みの封筒などを活用できる。実践方法を収集し、市民に紹介・提案をしてみてもは。	プラスチック製の袋等については、不必要に使用・廃棄されることのないよう、具体的な削減方法を提示し、意識改革を働きかけていく必要があると考えている。
6	p.7	9 高齢者対策について	2、3 年ほど前に、NPO ごみ捨てお助け隊が米子市まちづくり活動支援交付金を活用してごみ出し支援活動をされた実績がある。団体にその後の情報等フィードバックしてもらい、高齢者ごみ出し支援の促進につながれば。	NPO ごみ捨てお助け隊を含め、市内でごみ出しの支援活動をされている団体に実際の活動状況や課題等の聞き取りを行い、施策に反映させていきたい。